

日本災害看護学会JSDN / 第47号 2024年 6月 1日

【事務局】日本災害看護学会事務局（株式会社ガリレオ学会業務情報センター）

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1-4F TEL.03-5981-9824 FAX.03-5981-9852

http://www.jsdn.gr.jp/ e-mail : g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp

新年度を迎えるにあたり

理事長 大野 かおり

日頃より、本会にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

昨年9月に新役員体制となり、活動の方向性として以下の4点をあげました。

1. 災害看護活動体制の強化
2. 災害看護学の知識体系化および教育プログラム体系化の推進
3. 災害看護に関する国内外ネットワークの発展
4. 日本災害看護学会の安定的な組織運営

これらに取り組むことで、災害看護に関する知識体系、国内外ならびに学際的なネットワークを発展させ、研究・情報の蓄積をとおして災害看護学の発展を目指すこととしております。目標達成に向けて、各委員会が活動を展開しているさなかに能登半島地震が発生しました。1月1日には理事長、副理事長、ネットワーク活動委員長で対応を協議し、1月2日から先遣隊活動を開始しました。現在は「令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト」として、地域に根ざした健康課題の解決と長期的展望でまちづくりを支える活動を継続しています。このプロジェクトをとおして被災された方々および被災地で働く看護職を支援するとともに、今期の活動の方向性にあげた4点の強化・推進につなげる所存です。

みなさまには引き続き、ご支援賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

第26回年次大会長 ご挨拶

大会長 西上 あゆみ

第26回年次大会は大阪府、茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」をメイン会場として開催いたします。本大会のテーマを「災害に強く、そして備えを（Disaster Resilience and Preparedness）」としました。講演では、病院の防災、本会も加盟しております防災学術連携体について、防災リテラシー、気候変動と、テーマにふさわしいトピックスとなる内容で企画いたしました。シンポジウムでは、災害看護支援のあり方、災害時要配慮者への看護、有事の備えなど実践的な内容で討議していただきたいと考えています。また、今年1月1日に発生しました能登半島地震では、本会は1月2日より活動を行ってまいりましたが、この知見を参加者の方はもちろんのこと、市民の皆様に伝えたいと考えています。

年次大会は、会場とオンデマンドの双方を利用したハイブリッド開催を予定しています。会場はもちろんのこと、聞き逃したプログラム、振り返りたい講演にも対応したいと考えています。多くの方々が参加してください

ますよう、心からお待ちしています。

第26回年次大会ホームページ

<http://jsdn26.umin.jp/>

年次大会参加登録期間（オンライン登録のみです）

第1次登録期間：2024年4月3日～7月3日

第2次登録期間：2024年7月4日～10月17日

第26回年次大会市民公開講座のご案内

社会貢献・広報委員会 委員 伊東 愛

日本災害看護学会第26回年次大会の市民公開講座は初の試みとして、子どもが取り組める内容を企画しました。『親子でチャレンジ！防災ナゾトキゲーム&防災工作』と題し、ゲーム要素を取り入れた、楽しい体験型の公開講座です。

このニュースレターをお読みの方の中で、ご自身や近隣の方でお子様がいらっしゃる方はこれまでの生活を振り返ってください。お子様と防災について話をしたことがありますか？。あの親子は防災について話をしているのでしょうか？。そして、想像してください。お子様は災害が起こった時に、無事に逃げ延びることができるでしょうか？

「防災について話し合ったことがない」「逃げ延びることができるか、心配だな」「あの親子に防災について学んで欲しいな」と思う方はお子様や近隣の方をお誘いください。

公開講座の内容は、まず1つ目は防災に関する謎解きゲームです。豪雨を切り口に、クイズに答えながら楽しく防災について学ぶことができます。いざという時に役立つロープの結び方も体験できます。2つ目は防災工作です。段ボールを使って、簡単に丈夫な椅子を作ります。作った椅子はお持ち帰りいただけます。皆さま、ぜひご参加ください。

令和6年1月能登半島地震における本学会の活動

副理事長 酒井 明子

1月1日16時10分に発生した令和6年能登半島地震に対し、日本災害看護学会は、1月2日より石川県珠洲市に先遣隊を派遣した。先遣隊の活動は、災害看護の専門家として現地に入り、被害の全容と支援ニーズの把握を行い必要な看護ケアの提供を行うとともに、継続した支

援体制を整えるための調整を行うことである。先遣隊は、飯田高校、正院小学校、蛸島小学校などの避難所で活動した。1月10日からは、孤立地区の大谷小中学校に常駐し、停電・断水・通信障害が続く中、24時間体制で避難所環境の改善や医療支援・生活支援全般2次避難者支援を行った。巡回診療が不定期のため、緊急対応や処方対応に追われた。

断水改善の見込みもなく、最低限度の生活も保障されない状態であり、今後、中長期的支援の必要性が高いと判断し、2月3日理事会にて承認を受け、2月10日以降は、令和6年能登半島地震災害看護プロジェクトとしての活動に切り替えた。プロジェクトの目的は、人々の生命や生活を守り、刻々と変化する課題に対して被災者に寄り添い看護の力を結集させて建設的に問題解決を図ること、過疎高齢化災害における課題に対して専門的知識の蓄積・貢献に資することである。災害関連死予防とコミュニティ再構築がねらいである。活動内容は(1)大谷小中学校の避難所支援 (2)仮設住宅・在宅避難者支援 (3)要配慮者(独居高齢者・障害者・子供たちや両親などへの支援) (4)ケア提供者への支援 (5)こころのケア (6)実践研究 (7)地域コミュニティ支援 (8)イベント開催 (9)他学会との協働による支援および課題解決のためのシンポジウム開催などであり、今後、被災地と連携し、組織的に活動していく予定である。会員の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

第8回世界災害看護学会(WSDN)のご案内

大会長 神原 咲子

2024年11月29日～12月1日神戸市看護大学でWSDN 24の大会長を務めることとなりました。テーマは、Rethinking Disaster Nursing in a Changing Risk Landscape -From Primary Health Care to Social Innovation, with a Focus on Planetary Health- です。本学会は2008年に7つの設立国で始まり、その後東日本大震災や国内外の様々な災害がおこるなか、SDGsと仙台防災枠組みに貢献するグローバルネットワークへと発展してきました。持続可能な地域社会への知識強化とグローバルヘルスの改善に寄与し、看護の未来に貢献したいと考えています。

阪神・淡路大震災から30年を迎える2025年に向け、これまでの先進的でグローバルな神戸市のイメージを基盤に「健康で安心安全な暮らし」を議論できるよう防災・環境など幅広い研究者や関係機関と連携・協力しながら準備し、会期前後含めて、神戸市看護大学を基点とし、ハイブリッドを用いて広く配信しながら議論したりかつ市内を体験するプログラムで多くの議論を生みさらに発信させる工夫を凝らしています。皆様のご参加心からおまちしております。

<https://wsdn2024.com/>

Series委員会活動!「災害看護教育活動委員会」

災害看護教育活動委員会 委員長 酒井 明子

災害看護教育活動委員会は、酒井明子、山崎加代子、酒井彰久、作川真悟のメンバーで活動している。災害看護は災害急性期における被災者・被災地域への援助だけではなく、災害発生前から時間経過と共に変化するニーズに応えるものである。所謂災害サイクル全てが災害看護の範囲となる。また、対象は人々であるが、コミュニティ・社会を含む。そして、災害現場では様々な支援組織が支援をしている。そのため他の専門職などの役割を確認し、連携をしていくことが重要である。委員会とし

ては、どのように災害看護教育の発展に貢献できるセミナーを開催するか、メンバーと議論を交わしながら、実践していく予定である。

新委員会での第1回目のセミナータイトルは、「災害看護教育におけるリアルとバーチャルの融合」とした。実施日は、2023年12月3日(日) 13:00～16:00(オンデマンド配信:2023年12月11日(月)～2024年1月10日(水))であった。参加者はライブ配信人数32名、オンデマンド配信人数50名であった。参加者アンケート結果のセミナーの感想では「技術を使う側が意図して看護の何を伝えるのかを明確にする必要があることがわかった」「今後の災害看護の教育方法にリアルとバーチャルの双方を活用していきたいと思った」などがあった。第2回目のセミナーは、「災害の現場は今-能登半島地震スタディツアーを検討している。この企画は、今年の奥能登地震後に企画した内容であるため、令和6年能登半島地震経過を注視しながら、実施時期や内容について柔軟に修正していく予定である。実施が可能となった際は、皆様からのご参加を宜しくお願い致します。

Series委員会活動!「募金活動委員会」

募金活動委員会 委員長 渡邊 智恵

募金活動委員会は、国内外で大規模な災害が発生した場合、被災地の看護者を支援し、被災した看護者の生活支援および看護者による救援活動を支援することを目的として募金活動を行っています。大規模な災害とは、国内外で発生した死者1,000名以上に達するような大規模災害、あるいはそれと同等と見込まれる場合、または理事会が必要と認めた災害です。国内災害では、これまでに東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、令和元年台風19号、COVID-19、能登半島地震で募金活動をしており、被災地支援のための実践、教育、研究活動等で活用しています。国外では、フィリピン台風第30号、ネパール地震、トルコ・シリア地震等で、いずれも被災地の看護協会等に送金をして看護師たちの生活支援に活用しています。昨今の国内外で発生している災害の大規模化・複雑化と頻発化により、常に募金活動を展開しており、多くの会員の皆様からご寄附いただき、心より感謝を申し上げます。現在、能登半島地震の募金活動を展開しており、長期的に支援するために募金の延長を検討しています。引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

新しい年を迎えるやいなや、2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は心穏やかなお正月を一変させました。災害は時や場所を選ばないのだと思ひ知らされました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

今号では、理事長挨拶、第8回世界災害看護学会の案内、2つの委員会活動報告に加え、能登半島地震における先遣隊の活動やプロジェクト活動を掲載しました。第26回年次大会では能登半島地震の活動から得られた知見が報告されます。また、子どもたちが災害の備えを学べる市民公開講座を開催しますので、会員・市民の皆様、どうぞご参加ください。能登半島地震の募金活動につきましても、ご支援の程よろしくお願いたします。

(社会貢献・広報委員会 委員 伊東 愛)